

# 令和3年度 高津区地区研究報告

## 1. 研究主題 「子どもたちの豊かな心と体を育む保健室経営」

～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた保健教材の工夫～

### 2. 主題設定の理由とねらい

高津区養護研究会では、日常の保健室経営の中で、子どもたちの気になる様子や健康課題について、話し合いを進めてきた。その結果、子どもたちが自ら健康に過ごすための行動が継続できていないことや、繰り返し保健指導を行っても健康的な行動の習慣化が難しいことが課題として見えてきた。子どもが自分の体に関心を持ち、健康に過ごすための行動ができるようになるには、これまでの指導内容を見直し、子どもたちに伝える手立てを工夫していく必要があると考えた。

高津区の目指す子ども像を「自分の体・健康に関心をもてる子ども」「健康的な行動を習慣化し、実践できる子ども」とし、ねらいにせまる具体的な手立てを話し合った。各学校で行っている保健指導や実践を振り返ったところ、今までの保健教材や掲示物に見にくさや分かりにくさがあったのではないかと、説明の仕方に見直しが必要なのではないかという意見が挙がった。また、内容が理解できず困っている子どもたちの様子も見られた。そこで、教材を工夫することで、すべての子どもたちにとっても分かりやすい教材になると考えた。工夫した教材を用いて実践することで、子どもが自分の体と健康に関心を持ち健康的な行動につながるきっかけになるのではないかと考えられた。

子どもたちとの関わりの中で気になった場面や課題として挙がった「けがの手当」「感染症予防」「健康診断」について、3つのグループに分かれて研究を進めることにした。人間は情報の80%以上を視覚から得ていると言われていたことから、どんな人でも見やすく、伝わりやすくするためには、視覚から入る情報を工夫して教材を作成することで、私たちが伝えたい内容を確実に伝えられるのではないかと考えた。そして「いつでもできる」「どこでもできる」「だれでもできる・わかる」をキーワードにし、保健教材作りの研究に取り組むことにした。子どもたちが自分の体と健康に関心を持ち、健康的な行動を習慣化し実践できるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた保健教材の作成や見直しを進めた。

### 3. 研究経過

ブレインストーミング法やKJ法を用いて、各学校の子どもの実態について共有した。その結果、けがをした時に自分でできる手当ができていない、体調不良時に自分の体の状態を伝えられない、健康診断では検査方法が理解できず困り感を抱えている等の子どもたちの姿がみられた。そこで課題解決に向けて、視覚から得る情報が大きいことから見やすく分かりやすい保健教材や掲示物の工夫点としてユニバーサルデザインを取り入れることを検討した。「けがの手当」「感染症予防」「健康診断」のグループに分かれ、実践内容の検討や保健教材作りの研究を進めた。

## 令和3年度

- 4 月 研究テーマの確認、グループ別研究推進
- 5 月 研究方法や冊子の確認、グループ別研究推進、  
研究指導助言：川崎市立戸手小学校 校長 後藤 美智子 先生
- 6 月 研究方法や冊子の確認、グループ別研究推進、  
研究報告会、教材の提供方法についての話し合い
- 7 月 冊子原稿作成、グループ別研究推進、オンライン練習  
研究指導助言：川崎市 総合教育センター カリキュラムセンター  
指導主事 野口 裕子 先生
- 8 月 冊子原稿作成、グループ別研究推進
- 9 月 冊子原稿作成、グループ別研究推進
- 10月 講演会・研修会「養護教諭が活用できる GIGA 端末の基本操作について」  
講師：川崎市立旭町小学校 校長 青木あゆ子 先生
- 11月 冊子原稿作成、研究報告会準備（スライド、原稿作成）、グループ別研究推進
- 12月 冊子原稿確認、グループ別研究推進、研究報告会準備（スライド、原稿作成）
- 1 月 報告会リハーサル、研究報告会
- 2 月 今年度の研究のまとめ
- 3 月 来年度へむけての検討

### 4. 今後の課題

今回3つのグループで作成した教材は、教材の内容やユニバーサルデザインの視点から工夫した点分かるように、高津区で作成した「教材情報共有シート」を使用して共有を図った。また「実践振り返りシート」を作成し、実践の振り返りや今後の課題をグループ内で共有できるようにした。そのため、高津区内のどの学校の子どもたちにも分かりやすくねらいを伝えることができた。私たち養護教諭が伝えたい内容を「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる「わかりやすい」教材にするという高津区の目標を形にすることができたと思う。今後は今回作成した教材の内容を更に工夫し、指導を継続していきたい。また、指導する時間の確保や今年度から導入された GIGA 端末での活用については、今後の課題である。